

愚を繰り返すな日本

黒川 清さんに聞く

変わらなければ、日本の将来はない

国会の福島原子力発電所事故調査委員会が「事故は人災」と断じた最終報告書を出して解散してから4カ月。委員長を務めた黒川清政策研究大学院大学教授はいまも事故調査委員の顔として忙しい。講演で各地を飛び回り、英語版も出して海外でも説明している。

「報告書が無視されて忘れ去れては困りますからね。報告書を生かすも殺すも政治次第。政治家は政局しか考えていないかもしれないが、政治家を選ぶのは国民。だから、国民に内容を理解してもらおうのは大事です。日本の将来にかかわる問題だから、機会あるごとに訴えているのです」

報告書では論客ぞろいの委員に「事実をもとに執筆を」と求め、委員の持論を封じた。が、緒言だけは自らの持論を連ねている。日本社会論に踏み込み、覚悟なきエリートたちの浅ましき、安全軽視を許した社会の深層の問題を提起した。批判もあったが、緒言の行間には思いが込められる。

「緒言には朝河貫一という約100年前の人物のことを書きました。朝河は福島県二本松市出身で早稲田大学の前



黒川清さん、内閣特別顧問を経て2006年から現職。国会の福島原子力発電所事故調査委員会委員長を務めた。著書は『イノベーション思考法』など。

若者よ「出る杭」に

造が現れ、その頂点は何と聞くと財務省と答え、それをさらに切り出して頂点を問うと事務次官と答える。では頂点に行くにはどうすればいいのかと問うと、東京大学法学部に行くとか答える。大企業の構造も同じで、いったん入ると組織を変わることもなく、年功序列で出世していく。「こんな構造、発想はほかの国ではありません。しかし、日本ではそれに疑いをはさまない。官庁、大企業のエリートは保身を優先し、お互いがなれ合って問題があってもなるべく先送りする。いざという時の覚悟もない。これが報告書で指摘した『単線路線のエリート』の問題です。彼らは変わらなければいけない時

も変わらない。バブル経済崩壊後の失われ続けた20年の正体はこれだし、事故を防げなかった要因でしよう」

「原発事故を契機にエリートたちが変われと言っても本当に変わるのには、分りません。組織、発想を変えるにはものすごいエネルギーがいる。自力で変えようとするなら、期待できるのは若い人しかいないかもしれません」

異質育てて社会変えよ

身の東京専門学校を出てから米国に渡ってエール大学教授となり、日本人で初めて外国の大学教授になった。彼は日露戦争の時に日本に理がありと米国世論に訴え、講和条約の仲介にも絡んだ。だが、満州事変後に日本に理はないと指摘し、このままでは日本は米国や中国と衝突して負けるかと警告しました

「朝河を引用したのは、いま日本が変わらなければ必ず将来ひどいことになるよと伝えたかったから。日本は朝河の警告を無視して戦争に突入り

敗れた。原発事故があって、同じような愚を繰り返すなどという警告です。政治家、官僚、産業人は言うまでもなく、国民の一人ひとりが自覚して変わらなければ日本の将来はないのです」

響したのか、「あまのじゃく」というか反骨精神ができてきたという。世の中はバランスが大事と、常に大勢派から距離を置く。その反骨精神で世を牛耳る偏差値エリートを鋭く批判し、それに感化されている社会を案じる。

「30代前半に留学し、その後米国に留まって経験を積ませてもらいました。米国滞在中に日本人を見ていたら、経済成長とともに傲慢になって

いく。米国社会には溶け込まないし、肩書主義で上下関係ばかりにとらわれる。アジア人なのにアジアの人々に優しくない。日本はおかしいと感じました」

「いま、日本の社会はどこを切り出してもピラミッド型のはイエラルキー構造。頂点の部分を指して『日本社会でこは何』と聞くと、大体の人が覆か関、つまり官庁という。そこを切り出すとまた同じ構造が必要があります」

「いまの社会構造を当然と見る思い込みは捨てよ

子供のころ、結核で死にかかった。それが精神形成に影響したのか、

「そもそも日本人全体にこんな社会構造を当然と見る『思い込み』がある。話をしている、イエラルキーの中でお互いの位置づけが分からないうと会話にならず、不安になる。イエラルキーを当たり前に考える習性が言葉遣いにも入り込んでいる。言語や文化はともかく、安全軽視を許した土壌にはこの『思い込み』が潜んでいる。これは考え直す必要がありませう」

「私はずねづね『出る杭を育てよ』と言ってきました。ハイリスクハイリターンの人

「世の中を変えるには異質が大事です。欧米には冒険心あふれる人を輩出する文化がある。有名大学を出ても安泰な生活を求めず、アフリカなどにいくなど、リスクの高い人生を選ぶ人たちがいる。日本も一流大学を出た後にイエラルキー構造の頂点を目指すのではなく、冒険をする人を育てる必要がある。私はそういう人たちを応援しています。『思い込み』を排し、日本社会を変えるためにも異論、異質、異端を育てたい」

「海外で暮らしてみれば、いい意味で愛国心が芽生え、日本のおかしなところが分かってくる。日本ではよく、グローバル発想と言う。だが、それは日本から見たグローバル発想。世界が日本をどう見ているかは、分かっていない。感受性豊かな若者に外から日本を見てもらえば、狭量な発想から脱して世の中を変える原動力になる」